

平成 20 年 9 月 25 日

御議論いただきたい事項について  
(たたき台)

## ○ 基本認識

(現状)

終戦後 60 年以上経過し、次の世代に先の大戦の労苦が十分に引き継がれず、兵士、シベリアなどでの強制抑留者、引揚者の労苦が風化していく傾向にある。

- ・ 労苦継承の意義は何か。
- ・ 関係者の労苦の風化を防ぐため、労苦継承事業を実施するに当たっての基本的な考え方・姿勢をどうするか。例えば、労苦を引き継ぐ際に、主にどういった対象を念頭に置くか。

## ○ 今後の労苦継承事業

(現状)

平和基金による労苦継承事業の現状 (別添参照)

- ・ 現在の労苦継承事業で、現状の取組で充実すべき点は何か。
- ・ 誰もがいつでも実物資料を見て、関係者の労苦を聞くことができるようにするためには、常設展示が必要ではないか。
- ・ 地方の人々や若い世代に労苦の尊さを伝えていくためには、どういう取組が必要か。
- ・ 関係者の労苦を常時発信し、次の世代による学習や研究の便宜などを図るため、デジタル・アーカイブの構築・公開が必要ではないか。
- ・ 語り部など労苦を語り継ぐ役割を担う方について、体験していない世代にも育成の対象を広げていくことが必要ではないか。

## ○ その他

- 約 3 万件の歴史資料等を所蔵
- 常設の展示資料館を開設。資料館において特別企画展の開催
- 平和祈念展（東京）の開催
- 地方都市で、地方展示会の開催
- 地方都市で、語り継ぐ集い、平和祈念フォーラムを開催
- 体験者の労苦体験記などの作成・配布
- 「戦後強制抑留史」の編纂
- 語り部の小学校派遣
- 高校生を対象とした校内番組制作コンクールの実施